

大和田 1 組 4 $\left[\begin{array}{c} 2-2 \\ \\ 2-1 \end{array} \right]$ 3 シルクロード S C 1

6 4 回を迎えた八王子市民大会少年部 6 年生の決勝戦は、シルクロード S C 1 と大和田 1 組の対戦となった。今年から採用された 8 人制サッカーの中、天候にも恵まれ、選手達の気迫が観客席まで伝わってくるほどの好試合が展開された。

両チームのフォーメーションはともに 3-3-1 で、シルクは中盤の 10 番を中心に攻撃をしかけ、大和田は同じく中盤右サイドの 29 番と F W の 43 番を中心に攻撃をしかけていた。試合序盤、シルクは早速 10 番にボールを集める。3 分、10 番が相手 D F に囲まれるも一人で突破をしてミドルシュートを放つが惜しくもゴール左に外れた。技術があり、体格にも恵まれた 10 番が相手を圧倒したプレーの直後、大和田は 43 番と 29 番のパス交換から相手ゴールに迫るが、惜しくもシルク D F 陣に阻まれた。この様な展開が続く中、シルク D F 陣の一瞬の隙をついた攻撃を大和田が仕掛ける。4 分、センターサークル付近で 29 番からパスを受けた 43 番がドリブルを始め、相手 D F 3 人を抜き去り、G K と 1 対 1 になりシュート。これが決まり先制ゴールを奪った。この得点で勢いにのった大和田は 5 分にシルク D F の背後に出たボールに反応した 29 番がゴールに迫るものの、シルク D F 陣の必死の守りにシュートまで至らなかった。

一方シルクも反撃を試みる。8 分、大和田の中盤でのパスをインターセプトした 2 番がドリブルでゴール前まで進みシュート！ これが見事に決まり同点に追いついた。立ち上がりには失点はしたもののこの得点でシルクは息を吹き返し、一気に勢いにのった。10 番を中心に立て続けに大和田ゴールを脅かすが、得点には至らなかった。一方 1 3 分に大和田も 23 番が放ったコーナーキックが直接決まるかに思われたが、シルク G K のファインセーブに阻まれ、その直後の 29 番のドリブルからのシュートもシルク G K にキャッチされた。

この一進一退の均衡を破ったのはシルクだった。15 分、再び 10 番が前線でボールを受けてドリブルからシュートを放つ。このボールはポストにはじかれたが、中央にいた 11 番が押し込んで逆転ゴールを決めた。逆転をしたシルクがこのまま流れをつかむかと思われたが、大和田も攻め返す。17 分に大和田の選手がクリアしたボールがシルク D F の裏に落ち、これを処理しようと飛び出したシルク G K がキャッチミスをしてしまい、このこぼれ球に反応した 43 番がゴール前にパスを送った。このボールをシルク D F が処理を誤り、まさかのオウンゴールで同点となった。ラッキーな得点だったが、試合を振り出しに戻す非常に大きな 1 点となった。ここで大和田は攻撃の中心として活躍していた 43 番に代わり、33 番が投入された。その後、前半終了間際のシルクの攻撃を大和田がなんとかしのぎ、前半終了のホイッスルが鳴った。

後半は、立ち上がりからシルクが再び 10 番を中心とした攻撃をしかけたが、大和田 D F 陣の体を張った守備に阻まれ、得点にはいたらなかった。4 分、大和田も 29 番が右サイドからドリブルで相手 D F を抜き去り、さらにシルク G K までかわしてシュートを放つが、このボールをシルク D F がカバーに入りクリア。両チームともにゴールまであと一歩届かない膠着した展開が続いた。5 分、ここで大和田は前半に退いた 43 番が 33 番と交代し、再びピッチに戻ってきた。9 分、大和田はハーフライン付近で相手のパスをインターセプトした 27 番がドリブルからミドルシュートを放つが惜しくも右に外れてしまった。その直後、シルクも 10 番がアタッキングサードでボールを受け、ドリブルで仕掛けるが大和田 D F 陣が人数をかけて阻止した。この頃からシルクは全体的に運動量が落ち始め、大和田 D F の裏を狙うだけの単調な攻撃が目立つようになった。11 分、大和田は 27 番からのパスを 43 番が右サイドに流れて受け、相手を一人かわしシルク G K と 1 対 1 の決定機を作りシュートを放つが、これをシルク G K が弾き、シルク D F がサイドにクリアした。ここで大和田は素早くスローイングを

入れ、23番からのクロスに29番が中央で合わせてヘディングシュート、これが鮮やかに決まり3点目を奪った。相手の一瞬の隙をついた素早いリスタートからの見事な得点であった。

この得点で勢いに乗った大和田は、続く12分にシルクの中盤での不用意なパスをインターセプトし43番につなぐ、43番がドリブルから右足を振りぬきシュート！試合を決める4点目が決まった。その後も大和田は全員で積極的に前線からアプローチをし、シルクに有効なプレーをさせなかった。特に43番のハードワークには目を見張るものがあった。このまま試合終了に思われた20分、シルクも最後の意地を見せる。10番と11番がアタッキングサードでパス交換を行い、10番がシュート！これは大和田GKに弾かれたが、その混戦の中で再び10番がシュートを放ち得点。1点差まで詰め寄った。ロスタイムでのシルクの最後の攻撃、大和田DFラインのクリアボールをシルク5番が弾き返し、そのボールに反応した21番がフリーでヘディングシュートを放つも大和田GKにキャッチされ、ここで試合終了のホイッスルが吹かれた。この瞬間に大和田の優勝が決まった。

<技術委員会からのコメント>

試合を振り返ると、DFラインからきちんとビルドアップをし、全員で攻撃・守備をしようと試みていた大和田に対し、シルクは中盤の10番に任せ、そこから個人の力で突破を図る、という印象を受けた。両チームとも、優勝がかかった試合だけに「絶対に勝ちたい」という勝負への執着心はあった。大和田は誰か一人の選手に頼るのではなく、全員で守り、全員で攻撃をしかけ、そこから自分達の流れを作り得点を重ねた。特に前後半を通しての43番のハードワークは、シルクに楽なプレーを許さず、まさに優勝に相応しいチームであった。一方、シルクはドリブルの技術がある選手が多かったが、ゴール前でのチャンスが少なく、最後は10番の個人技に頼ってしまっていた。

1点差という結果だったが、両チームの特徴が良く出た決勝戦であった。この決勝戦の舞台で、最後まで戦った両チームの選手達に大きな拍手を送りたいと思うが、ジュニアユース年代でのさらなる飛躍を期待し、技術委員会からアドバイスを3つ送りたい。

1. パス&コントロール

ジュニアユース年代では、もっと正確なキックとボールコントロールが求められる。自分の得意な利き足だけではなく、両足でボールをコントロールすることを心がけてほしい。長い距離を正確に蹴ることができればより良いのだが、ジュニア年代での筋力を考えると、短い距離のパスをもっと正確に蹴れるようになることを求めたい。またファーストタッチでも利き足だけでのコントロールが目立った。相手との距離やどこにスペースがあるのかを判断したプレーを心掛けてもらいたい。単純に足元に止めてしまうのではなく、意図のあるファーストタッチを心がけよう！

2. ドリブルのスキル

両チームともに決勝戦まで勝ち上がってくるだけあり、個人のドリブルの技術には目を見張るものがあった。しかしドリブルで相手に仕掛けながらパスをはたくといった、相手の嫌がるドリブルができる選手は少なかった。相手のボールを奪って素早く攻める場面で、ゆっくりとしたドリブルをしてしまう選手や、左足で蹴れないために右足に持ち直してからドリブルに入るような者もいた。これからはいつ、どこでドリブルをし、自分の得意なドリブルを生かすために、パスやシュートなどの選択肢を常に考えた中でプレーできるようになってほしい。

3. 判断のスピード

年代が上がっていけばいく程、サッカーに必要な3つのスピードはアップしていく。3つのスピードとは・・・

- ①走るスピード
 - ②プレーのスピード（ドリブルやパスのスピード、ターンやスクリーン等のスピード）
 - ③判断のスピード
- である。①や②のスピードは、体が成長し筋力がアップしなくては上がっていかない。し

かし③の判断のスピードはジュニア年代でもアップさせていくことができる。これからのジュニアユース年代では、今よりもハイプレッシャーの中でプレーしなくてはならない。

今大会は8人制で、普段の11人制サッカーより人数が少ない為にスペースがあり、プレッシャーを避けてボールを受けることができたはずだが、良い判断をしてプレーをする選手はまだ少なかった。自分がグラウンドのどこでボールを受けているのか、またどこに味方や相手、ゴールさらにスペースがあるのかを素早く「観る」ことを日頃から習慣づけ、判断のスピードを高めていこう！

これらのことを意識して練習に励み、ジュニアユース年代で君達がさらに成長してくれることを期待している。